

長寿命のはんだ工具

アルファ技研 無鉛向け耐熱性向上

環境機器製造のアルファ技研(神戸市、吉沢雄社長)は、鉛を使わないはんだの接合作業に適した工具「写真」を開発した。無鉛はんだは通常



の鉛入りに比べて高温で溶かさなければならず、従来の工具では消耗が早い。新しい工具は材料や製法の工夫で耐熱性を高めた。従来品に比べ、寿命が約2〜3倍長いため交換回数を減らせるという。

開発したのは、はんだごとの先端部に付け、はんだを溶かす熱を伝える「こて先」と呼ぶ工具。銅や鉄、セラミックス原料を混合した粉末を焼き

高めた。価格は製造方法の工夫などで、従来とほぼ同等の水準に抑え、8月から本格的に受注を始めた。まず5億円の売り上げを目指す。はんだはスズを主成分とする合金で、電子部品

を基板に接合するのに使う。無鉛はんだは環境配慮のため鉛に代えて銅や銀などの金属を使うが、スズを多く含むため、はんだを溶かす温度を高く設定する必要がある。こて先の表面に穴が開くなど消耗しやすかった。